

サポート

NO. 144号

平成29年8月23日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

第27回全国高等学校産業教育フェア秋田大会

来る10月21日（土）と22日（日）の両日、秋田市で第27回全国産業教育フェア秋田大会が「産業交響曲（シンフォニー）～轟け！秋田の大地から～」のキャッチフレーズのもと、開催されます。

この「さんフェア」は、農業や工業、水産業や商業などの産業教育に取り組む全国の高等学校による祭典で、日ごろの学習成果を展示・販売、競技大会などにより多彩に発表し合う一大イベントとして、各都道府県持ち回りで毎年開催されています。秋田県での開催に当たり、昨年度から栗田支援学校の2名の生徒が生徒実行委員として、企画・広報・視察等の活動を行うとともに、県内の特別支援学校が「プレ大会」に参加するなどして、準備を行ってきました。

本年度は、本大会に全ての県内特別支援学校が参加します。秋田市立体育館を主会場に、各特別支援学校における職業教育や産業教育の実践紹介、作業学習製品の展示・販売、高校生と共にを行う「曲げわっぱ」や「樺細工」などの地場産業の実演・体験コーナー、高校生カフェでの接客・販売、ふれあいマッサージ（秋田市にぎわい交流館AUで実施）、職業教育の実践発表、さらには、特別支援学校技能競技会「鍊成会」や太鼓・よさこい演舞と多彩に発表します。

高校生と共に作り共に表現する「さんフェア」での特別支援学校生徒の輝く姿をぜひ御覧ください。御来場を心よりお待ちしています。



秋田大会ポスター



昨年度のプレ大会
の様子から
左：天王みどり学園
「喫茶みどりの風」
中：栗田支援
「Café くりた」
右：ゆり支援
「展示販売」

※詳しくは、ウェブサイトから～「さんフェア秋田」で検索を～

第46回秋田県特別支援学校「学校展」

8月5日（土）、6日（日）の2日間に渡り、第46回「学校展」が秋田ふるさと村を会場に開催されました。各校の特色ある学習活動の様子をパネルや作品展示、ビデオで紹介したり、作業学習製品販売を行ったりして、会場は多くの人で賑わいました。

この学校展は、県高等学校長協会特別支援学校部会と県特別支援学校PTA連合会が共催で毎年開催しています。今では学校数も15校1分教室となり、地域に根ざし、地域に愛される学校へと発展してきましたが、その背景には、この教育に携わってきた多くの方々の障害者理解への願いと尽力があります。46回目を迎えた学校展に、より多くの方々に来ていただきたいとの願いから、これまでの10月開催から夏休み中の開催とし、家族連れで賑わう秋田ふるさと村を会場に選定しました。

展示会場には、全長36mの回廊いっぱいに全県の特別支援学校の展示品が並び、自立と社会参加を目指した教育活動と児童生徒の努力の結晶が凝縮した空間となりました。販売会場では、県南4校の作業学習製品の販売を行いました。大曲支援学校と横手支援学校の生徒が商品のチラシ配りや接客を行い、緊張した面持ちながらも、笑顔でお客さんに声を掛けたり、質問に答えたりして、達成感の得られる活動となりました。

また、今年度は県南開催であり、県南ならではの学校展とするために、県南の四季（せんぼく校「角館の桜」、大曲支援学校「大曲の花火」、稻川支援学校「小安峡の紅葉」、横手支援学校「横手のかまくら」）をイメージした垂れ幕の作製や、地域の特色を生かした作業学習製品の販売を企画し、訪れた方々に地元の学校を身近に感じていただくことができました。

来場者のアンケートには、「県内にこんなに支援学校があるとは知らなかった。」「一生懸命に作業を覚えて社会貢献しようとする姿や物を作り上げる姿に、生徒や先生方の努力を感じた。」「素晴らしい作品の多さに驚いた。」等の感想が寄せられ、一般の方々に広く本県特別支援教育について知っていただく良い機会となりました。

（主管校 横手支援学校 教諭 岸 英子）



展示了会場の様子



横手支援学校生徒による販売



県南をイメージした垂れ幕